

これからの精神看護学臨地実習をどのように行っていくのかについて語ろう

○田上 美千佳¹⁾、鈴木 美央¹⁾、清水 崇志¹⁾、佐久間 詩織²⁾

1) 千葉大学大学院、2) 千葉大学大学院 看護学研究科

【本ワークショップの目的】

精神科医療の地域移行の促進の中で、精神疾患をもつ人々の地域生活が促進されています。このような状況下で看護学基礎教育である「精神看護学臨地実習（以下、実習）」は、どのような目標を基にどのように実習を行っていくことが望ましいのでしょうか？看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年改訂 文部科学省看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会）では、臨地実習の質保証に向けた参加型実習への期待もされています。精神看護学を教授する教員は、所属機関の教育理念や教育目標およびカリキュラム、教員体制、実習を受け入れていただいている機関の状況等、様々な条件の中、学生の「精神看護学」の修得のために実習目標達成につながる、よりよい実習をめざして日々、工夫を重ねています。

そこで、本ワークショップでは、本学での実習の実際を提示して、これからの実習の在り方、特に対象が地域でよりよく生きることを実感できる実習について参加者の皆様と検討したいと考えています。

【本ワークショップの構成】

1. 本ワークショップの主旨説明
2. 本学で行っている実習の提示
3. 各教育機関で実施している実習についての提示や意見交換
4. こらからの実習についての学びや気づき、より良い実習と課題の共有
5. まとめ

【本ワークショップの概要とめざすこと】

本学では、学内のカリキュラム変更に合わせて、1クール2～3週間の実習期間の中で精神科病棟1週間、地域支援機関1～2週間と、これまでより地域支援機関での実習日数を増やして実施していま

す。地域支援機関での実習により、地域での支援以前に地域で共に生きる人として精神保健問題を有する人と地域で共に生きることを理解することにつながると思っています。一方、精神科病棟での実習日数は減少しても入院中のケアを学修することの重要性をふまえて、対象者が抱えている生活上の困難や社会的な問題の理解をしてその人らしい生活を送れるようリカバリーの促進のための支援を考え実践するための基礎的能力の修得も求めています。つまり、地域・病棟の両方から対象の生きることの質の向上と自己実現を支える看護の実践の学びを狙いとしています。

このような本学の実習を一モデルとして提示し、その成果や課題を検討しながら、これからの実習のあり方と実現可能な実習について、参加者の皆様との意見交換をおこないながらよりよい実習についての共有を行いたいと考えています。本学の実習では、学生へのアンケート調査を行い、実習の評価をはじめています。当日はその結果の一部もご提示する予定です。

精神看護学臨地実習に携わる先生方・学生を受け入れてくださる実習機関の皆様をはじめ、実習に興味・関心のおありの皆様のご参加をお待ちしています。

倫理的配慮として、参加者が安心して意見交換できるように、ワークショップ中の写真撮影や録音・録画を禁止し、個人情報特定されるような内容についての守秘の厳守を同意書により求めます。

なお、本ワークショップ内で示す精神看護学臨地実習に関する研究成果は、千葉大学大学院看護学研究院倫理審査委員会の承認を得ています（承認番号:NR6-53）。

本ワークショップにおける利益相反はありません。